

生きる 夢に歌に

演歌歌手を目指す小倉さん



小倉より先に入門していく4人の兄弟弟子は、既にデビューを果たした。船村が「その時」を明言することはないが、もうすぐ自分も――

ツト曲を生み出した村。曲づくりのみならず、北島三郎、鳥羽一郎、香田晋・きり星のようすに輝く歌謡界のスターを育て上げた「人づくり」の名人でもある。船村の下を巣立つていった若者は200

「その時」デビューへ続く精進

人を超す。いまや伝統芸能の世界でもあまり見られないようになった住み込みの内弟子制度を、船村はかたくななまでに守り続ける。見ず知らずの若者の寝食すべての金銭を負担し、実の親でもと優しさを持つて指導する。そこには「濃密な關係でないと人間を育てることができない」との強い信念がある。船村は言う。「鍋釜を作るわけじゃない。感情の

動物である人間を育てるわけだから。何を考
え、どういう長所短所があるのか、そばにい
なれば分からぬ」船村の指導は言葉遣
いや日常生活の隅々にまで及ぶ。生活態度、
身のこなし、歩き方、ない

（1面から続く）
「君が本気なら3、4年やってみろ。それからは自分次第だ」
1999年9月、愛媛大農学部2年のとき、小倉憲一は出場したカラオケ大会で審査員から船村への弟子入りを

ずさんでいた曲をまねて歌い始めたのはまだ2歳のとき。そのころから音感に優れ「こんな小さな子が…」と周囲から不思議がられていた。3歳から、のど自慢大会に出場し、日本一を含むさまざまな

忘れてはいる何かが残っている」。小学6年のころには、おぼろげながら歌が紡ぎ出す世界を理解できるようにな

つていた。どこか懷かしいメロディーと、歌詞が描く日本人の原風景が、自分の中でぴたりと重なった。それだ

けに「演歌歌手」とい
う将来像はいつも頭の
片隅にあった。
しかし一方で、途中
で投げ出すことになる

の
公務員になるつもり
で、農業土木を専攻して
いた。中途半端で終わらせる
ことになり、なかで踏ん切りがつきま

ヤンスに挑戦しなさい
11月に上京。初めて
船村と対面する。「小
倉憲」と申します。ヒ
ろしくお願ひします」

「弟子に来るのは、既にある程度歌える人間だから」。船村が歌を指導することはほとんどない。「それよりも大事なのは人間性。芸とは人格で醸し出るものだ」。中でも演歌、歌謡曲は、多情多感を

師の教え 芸は人格で醸すもの

大學中退

挑戦決断両親後押し

学業も気に掛かつた。1年前に大学に合格したばかり。「歌手は夢すぎない」。長男(21)

せんでした」背中を押したのは両親の言葉「行かないで後悔するより少しでもいいから

料理の作り方、給仕の作法、テーブルマナー、時事問題……。しかし歌